

# 東洋ビューティ

## 生産・品質管理 万全に

化学品OEM（相手先ブランドによる生産）専門メーカーの東洋ビューティは、2016年4月期（75期）の決算を増収とした。増収の背景には、国内の顧客を中心とした生産、品質管理の構築がある。堅調に推移する国内需要の一方、国内で進行する少子高齢化への対策も強める。対策としては海外売上高を伸ばしていく考えで、今後は東南アジアなどを対象に海外売上比率を少しずつ高めていく方針。

同社は研究・開発拠点として、東日本には宇都宮研

究所、宇都宮第一・第二工場（栃木県芳賀町）、西日本には上野工場（三重県伊賀市）、イノベーショナルセンター（大阪市東成区）を構えており、東西から製品供給や共同研究を行う体制を整える。今年は受注が伸びる宇都宮工場で増設を進める。工場倉庫の増築、研究施設の増設を行うほか、生産設備を再編成する。

顧客は外資、国内の化粧品メーカーを中心に大企業から中小企業まで幅広く持つ。営業部門と研究開発部門が協働してアイデアを出し合える環境づくりを進め

## 宇都宮で生産体制を強化

ているほか、大阪本社と東京支社に置く営業企画部のマーケティングを通じて、総合的に提案力を向上し、顧客のニーズに対応する。

特徴ある原料を生み出す独自研究にも取り組んでいる。美白やアンチエイジングに効果がある同社独自開発の浸透型ビタミンC誘導体「フアンコスC-IIS」は日本、アメリカ、韓国、シンガポールなどで特許を取得している。顧客との独自原料開発にも取り組んでおり、高品質で優れる独自開発品からも需要をつかんでいく。